

仙台港みなと探険隊

～夏休み！みなとを探険しよう！～ を開催しました

夏休みを利用して地元の小学生にみなとの役割について理解を深めて頂くため、仙台塩釜港仙台区の見学会を企画し、7月30日・31日の2日間、宮城県内にお住まいの親子31名（子供20名、保護者等11名）が参加しました。見学会ではアクセル会議室でみなとの役割について説明を聞いた後、Aコース（最初にコンテナターミナルを視察する陸上視察）とBコース（最初に業務艇に乗船し仙台区内を見学する海上視察）に分かれて「みなと探険」に出発しました。



海上視察では、防波堤の外に出て、港内と波の大きさがどの位変化するかを体感してもらうとともに、船から見えるガス局のタンク、製油所や発電所などの暮らしを支えるエネルギー施設や震災の復旧工事が終了した岸壁には、工場生産された自動車を船に積み込む様子、取扱いが増えている製材、秋田新幹線「こまち」、セメント船や大型フェリーが入港する様子など、大型貨物船による利用状況を間近に見て頂きました。



陸上視察では、コンテナターミナルの管理棟屋上から、縦横無尽に動くストラドルキャリアでトラックからコンテナを積み替える様子や接岸中の船からガントリークレーンでコンテナを卸す様子を見て、その動きに興味深く観察し、保護者の方は操縦されている方の巧みな技術に感心されていました。



見学終了後には、復習と自由研究の一助になればと、船の種類や施設の名前など「みなと」にちなんだクイズを行い、子供たちも真剣な眼差しで取り組んでくれました。

「仙台港みなと探険隊」は例年夏休みに行っておりましたが、震災以降初めての開催で子供たちが海に来てくれるのか？不安な部分もありましたが、アンケートには「初めて船に乗ってとっても楽しかった」、「ストラドルキャリアが動くところが楽しかった」、復旧された政宗灯台が「カッコよかった」、「自由研究にぴったり」、「また来年も参加したい」、など嬉しい感想が書かれておりました。

“みなと”は、普段、皆さんの目に触れることが少ない縁の下の力持ちのような存在ですが、地元の子供たちに、見て頂くことで、震災後の復旧の様子や暮らしを支えるみなとの役割について考えて頂くきっかけになったと思っております。